

## 第 1 回高等学校改革プラン推進委員会（第四推進委員会）議事録

- 1 日時 平成 17 年 5 月 29 日（日）午後 2 時 00 分～午後 4 時 00 分
- 2 場所 長野県庁 西庁舎 111 号室
- 3 出席委員

中條 利治委員長	野口 廣子委員
百瀬 哲夫副委員長	小山 勉委員
小口 利幸委員	下川 隆委員
宮川 正光委員	丸山 哲弘委員
小林 進委員	藤本 光世委員
神澤 鋭二委員	長谷川 功委員
今井 隆一委員	鈴木 義明委員

### 4 開会

（西牧主任教育支援主事）

時間になりましたので、ただ今から、第 1 回高等学校改革案推進委員会を開催させていただきます。私は、この第四通学区の推進委員会を担当させていただきます、高校教育課高校改革プラン推進委員ユニット西牧でございます。

よろしくお願いいたします。

本日は、委員長の選任までの間、司会を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。なお本日の委員会は、委員長選任後、委員長と事務局との打ち合わせのため、5 分程度の休憩を取らせていただきますので、あらかじめご了承ください。

それでは、今回は第 1 回の委員会でございますので、委員の皆さまに自己紹介をお願いしたいと存じます。先ほど全体会の折に配布しました資料 2 でしょうか。その名簿順にお願いしたいと思います。小口委員さんのほうから、自己紹介をお願いしたいと思います。

（小口委員）

名簿の一番上にございます塩尻市長の小口でございます。市長会の中に総務委員会というのがございます、そちらに属している市長が割り振られたということでございます。よろしくお願いいたします。

（宮川委員）

私、南木曽町の町長の宮川と申します。県の町村会のほうからということで選ばれました。ただ私は事情がありまして、「県立高校の存続発展を願う会」その世話人もやらせていただいております。

どうぞよろしくお願いいたします。

(百瀬委員)

塩尻市の教育委員長の百瀬哲夫と申します。

よろしくお願いいたします。市町村教育委員会連絡協議会という団体がございまして、そちらのほうからの割り振りがございましてまいりました。よろしくお願いいたします。

(小林委員)

私は、朝日村教育委員会委員長の小林と申します。東筑摩郡の町村教育委員会連絡協議会のほうからということでまいりました。よろしくお願いいたします。

(神澤委員)

キッセイコムテックの神澤鋭二です。経営者協会のほうから依頼がありまして、本日ここに参加をさせていただいております。

よろしくお願いいたします。

(今井委員)

ソニーイーエムシーエス株式会社社長野テックの今井と申します。神澤さんと同じように経営者協会から依頼がありまして、この場に来させていただきました。

よろしくお願いいたします。

(野口委員)

木曽福島町にあります「ふるさと体験館きそふくしま」という施設にあります。NPO で運営しておりまして、そこの常任理事をしております。

よろしくお願いいたします。

(中條委員)

中條でございます。よろしくお願いいたします。

一応記載のありますとおり、県教委とは名札に記載にあります教育評価検討委員会の委員であります。その前は学校自己評価の関係の検討委員を2年ということで、多分その関係で指名されたと思います。よろしくお願いいたします。

(小山委員)

池田町の高瀬中学校の保護者の小山です。今年、大北地域の、郡の副会長をやらせていただいております。よろしくお願いいたします。

(下川委員)

白馬高校の保護者ということでおおせつかりました下川です。代表の中で一番北の外れでありまして、この広い地域の中で、木曽等あまり地域的に行ったことのないところもありますので、現状、地域等につきまして分からないところが多々ありますけれども、よろしくお願いいたします。

(丸山委員)

鉢盛中学校の丸山哲弘と申します。中学校校長会の中信ブロックの長ということでまいりました。よろしくお願いいたします。

(藤本委員)

松本深志高校の藤本でございます。校長会の代表ということでまいりました。よろしくお願いいたします。

(長谷川委員)

松本市の菅野中学校で教師をやらせていただいております長谷川と申します。よろしくお願いいたします。

(鈴木委員)

蘇南高等学校の鈴木といいます。公募委員ということで、抽選に当たったということで委員とさせていただきます。

蘇南高校に、6年間勤務しております。私も高等学校の教職員組合というのがありまして、そこでは生徒の急減期の危機感の中で、地域高校連絡会というのを立ち上げて、教育内容等について研究をしています。その責任者を長い間、やらせていただいております。

よろしくお願いいたします。

(西牧主任教育支援主事)

ありがとうございました。

続きまして、委員長の選任をお願いしたいと存じます。委員長の選任につきましては、高等学校改革プラン推進委員会設置要綱の第5条の規定により、「推進委員会は委員長を置き委員が互選する」となっておりますが、いかがいたしましょうか。

(藤本委員)

はい。

(西牧主任教育支援主事)

はい、よろしくお願いいたします。

(藤本委員)

いろいろな立場の委員の皆さんが、今、自己紹介なさっておいでになっているなど。私もこういった大きな委員会って初めてで、どういうふうになるか非常に不安といいますが、いろんなことを考えていけないかなと思っているわけでございますが、そういった意味で、バックグラウンドといいますか、そういったものを考えたときに、県の教員評価検討委員会の委員をされて、全県的なお立場でいろんな高校の様子をお分かりになっておられる、中條さまに、できたら委員長をしていただいたらどうかなと思いますが、いかがなものでしょうか。

(西牧主任教育支援主事)

ただいま藤本委員さんから、中條委員さんに委員長就任という話がございましたが、他の委員の皆さま、どうでしょうか。よろしいでしょうか。

(全員)

はい。

(西牧主任教育支援主事)

それでは中條委員さんに、委員長をお願いしたいと存じます。中條委員長さんにおきましては、こちらのほうに移動をお願いしたいと思います。

ここで、会議の進行について打ち合わせのため、約5分間の休憩をお願いしたいと思います。再開2時20分ということで、お願いしたいと思います。よろしいでしょうか。では、よろしくお願いします。

【休憩後再開】

(西牧主任教育支援主事)

時間になりましたから、会議を再開いたしたいと思います。

それでは中條委員長さんの方から、ごあいさつをお願いします。

(中條委員長)

改めまして、委員長を拝命することになりました、中條と申します。よろしくお願いいたします。

多分、経験、それからいろんな知識等含めて諸先輩方のいらっしゃる中で、私がということではありますけれども、要するにここで自治体、あるいは地区関係、学校関係、ややもすると議論が煮詰まっていく中で、利害が対立する場もあろうかと思えます。その中で、できるだけ中立的もしくは第三者的な立場の人間をということが、多分私の指名の一番の理由かなと思っております。

私、民間に籍を置いておりますけれども、民間企業からでも、当然市場が小さくなったり、赤字が続けばリストラということもあるわけですが、そのとき必ず議論をし、策を練り、やむを得ない場合は全員が納得をするようにやってまいりますので、先ほどの説明の中では制約といいますか、限られた時間等々、いろんな制約状況がございますけれども、少なくとも第4通学区に関しましては、全員が今年、ひとつの方向性を出せるまで、時間を期間をかけてということで進めてまいりたいと思いますのでぜひよろしくお願いします。

それでは、議事に入ります前に、副委員長を決めさせていただきたいと思えます。先ほど説明いただきました、推進委員会の設置要綱によりますと、副委員長につきましては、委員長の私のほうから指名することになっておりますので、先ほど私も、学校関係の経験を持っているということでお話し申し上げたんですけれども、できますれば学校関係、教育関係の経験も豊富な、塩尻市の教育長をやってらっしゃいます百瀬委員さんにゼ

ひお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。では百瀬委員。

それでは、百瀬副委員長ということで、お願いをさせていただきます。一言、その場で結構ですので、ごあいさつをお願いいたします。

（百瀬副委員長）

ただいまご指名をいただいたわけでございますけれども、私も高校の現場にありまして、退職いたしました4年経ちましたものですから、最近の状況というのはなかなかつかみにくい部分があるわけでございますけれども、何かお力になればと思います。なろうことなら、職務ですかね、第5項ですかね、「副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する」とあります。委員長さんに事故がないことを祈るばかりです。

よろしくひとつお願いします。

（中條委員長）

ありがとうございました。

それでは進めてまいります、簡単に、じゃあ事務局のほうから。

（西牧主任教育支援主事）

これから資料の説明に入るわけですが、その前に委員長さんのほうにお諮りいただきたいことがございます。

当推進委員会は、原則的にはすべて公開で行いたいと、こういうふうに考えております。つきましては、まずこの会を公開させていただくことについて、さらには内容につきましても、議事録として公開していきたいと、こんなふうに考えております。この件につきまして委員長さんのほうから皆さんの方に、お諮りいただけますようお願いいたします。

（中條委員長）

ただ今、事務局からございましたけれども、4つすべての推進委員会が公開を前提にということで、事務局のほうから話がございました。それにつきましてはまず、ご意見をいただいた上で、確認させていただきたいと思います。ご意見がおありの委員さん、いらっしゃいましたらお願いいたします。反対の方、いらっしゃいますでしょうか。よろしゅうございますか。はい。

それでは全員一致ということで、この第4通学区の推進委員会につきましても公開ということで、かつ議事録もすべて公開という前提で進めさせてもらいます。議事の中では、高校名についてもしかしたら出るかもしれませんし、何々委員がという発言にも当然記載がされるかもしれませんが、それを重々承知いただいた上で、会議を進めていきたいと思っております。

よろしくお願いいたします。

それでは、先ほどご説明がございましたが、もう少し、今いただいた資料につきまして、事務局の方からご説明をしていただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

## 5 資料説明

(西牧主任教育支援主事)

よろしくお願いいたします。

まず、配布資料についてご確認ください。資料ナンバー7、「高等学校改革プラン推進委員会への検討依頼事項について」これが1枚。それから資料の8として「県立高等学校の配置図」、よろしいでしょうか。それから資料の9として「平成16年度高等学校別入学者の状況」、これが資料の9です。それから資料の10として「平成16年度～17年度 入学者選抜に関わる募集定員 志願者数 入学者数の状況」それから資料の11として「平成17年度 旧通学区別入学者の流出入表(全日制)」、よろしいでしょうか。それから、もう1つ分厚い「学校要覧、第4通学区の分」ということでありますが、確認していただければと思います。

よろしいでしょうか。今日は第1回目ということで、これから検討していただく上での、基になる資料の提示ということが主になろうかと思いますが、よろしくお願いいたします。

まず最初に資料の7でございますが、これは過日の教育委員会の定例会におきまして、提示された資料でございます。最終報告の中で、いわゆる公立76校目安とすると、その提言を踏まえて、公立76校を目安に各通学区に校数を割り振ったものでございます。その際、これを見ていただければ、特に関係するところは第10区、第11区、第12区でございますが、今後の生徒数の推移から想定される各通学区、各区毎の募集定員をシミュレーションし、その数を基に最終報告で示されている総数の決定基準の考え方に基きまして、各通学区の校数を今後の議論のたたき台としてお示ししましたものでございます。現状の校数は、第4通学区におきましては20ですが、基準に基づく各通学区の学校数につきましては、17校ということでお示ししてあります。さらにこの地区に、多部制・単位制高校を1校設置するということでございます。

資料7についてよろしいでしょうか。

それから資料の8でございますが、また何かありましたら質問していただければと思います。県立高等学校の配置図ということで、平成17年4月1日現在のものでございます。特に説明することもないと思いますが、見ていただければと思います。

続きまして資料の9でございますが、平成16年度高等学校別入学者の状況ということで、第1通学区から第4通学区まで提示されております。この資料は、最終報告の資料の13ページから14ページでしょうか、資料の13ページ、14ページを見やすくするために、各通学区毎に編集し直したものでございます。特にこの学区につきましては、4枚目の第4通学区ということで見ていただければと思います。表の見方ですが、よろしいでしょうか。例えばの例ですが、旧第10通学区の蘇南高校ですが、平成17年度のは間に合わなかったものですから、16年度の資料をちょっと使わせていただいておりますが、蘇南高校につきましては、平成16年度募集定員は120名であったが、入学者数は113名であると。その113名の内訳ですが、市町村出身者、つまり蘇南高校の場合には、南木曽町の出身者が113名のうち44名いたということでございます。それから113名のうちdの市・郡出身者ですが、郡でしょうか、113名のうち木曽全体の出身者は100名、それから旧通学区、旧第10

通学区でしょうか、この出身者が100名ということでございます。

それから、実を言うと先ほど、113名のうち南木曽町の出身者が44名といいましたけど、じゃあ南木曽町の中学3年の生徒数が何名いたのかということ、67名ということでございます。67名のうち44名の生徒が蘇南高校に入学をしたと、こういうふうな表になるかと思えます。

そうするとあと右のほうですが、定員充足率120名に対して113名の入学者ということで、定員充足率は94.2%であると。

それから、市長村の出身比率ですが、113名のところ、南木曽町の出身者44名ということで、38.9%と。それを、木曽郡全体にしますと、ほぼ88.5%で、ほぼ9割近い生徒が蘇南高校に。それから旧通学区の出身者の比率も同じように88.5%と。それから、地元の生徒がじゃあどのくらい行っているのかということで、67名のうち44名ということで、これによりますと65.7%と。こういうふうになっているということでございます。

あと説明しないですが、よろしいでしょうか。これが資料9でございます。また時間があるときに見ていただければと、こういうふうに思います。

それから資料の10でございますが、平成16年、17年度の入学者選抜にかかわる募集定員、志願者数、入学者数の状況でございます。これも、第1通学区から第4通学区ということで、一番最後のページをめくっていただければと、こういうふうに思います。こども表の一番上のところ、蘇南高校の例をとりますが、平成16年度普通科の場合、募集定員は40名であったと。前期選抜で定員は12名、志願者が41名で倍率3.42で、入学確約者12名という表でございます。それから後期選抜は、28名の定員に対して32名で合格者29名ということで、合計入学者数41名ということです。従って定員充足率は102.5%ということです。

同じように平成17年度につきましても、同じようなことでございます。なお、前期の確約者と後期の合格者を合計して、入学者数に一致しない欄がありますが、そこは、下の「注意」のところで「入学数は再募集の合格者数を含む」ということで、後期選抜の後再募集をやった高校につきましては、その合格者数を入学者数のところに入れてあります。よろしいでしょうか。

では、資料の11について説明をしたいと思います。平成17年度旧通学別入学者流入出表ということで、まず平成17年度、この下に平成16年度もありますが、特に関係するところが10区と11区、12区のところですから、これを見ていただきたいと思います。ちょっと表の見方が分かりにくいかもしれませんが、横が「from 中学校の所属通学区」ということで、例えば10区のところを見ますと10区の下のところは2と書いてありますが、これはどういうことかということ、10区に所属している中学生が2名、旧の第1通学区へ流出をしたとこういう表でございます。分かるでしょうか。そうすると例えば、その下のほうに10区のほうを下にずーっといきますと4と書いてありますが、この4は7区のほうになっていますから、10区の中学生在4名、旧第7通学区の方へ4名流出をしたと。こういうことでございます。網掛けというのですかね、ちょっと291名となっていますけど、これはどういうことかということ、291名10区の中学生在が、10区の自分の通学区へ進学をしたと、こういう表でございます。その下にいきますと、24名ということで、これは10区から木曽の木曽郡内のほうから24名、第11通学区の高校の方へ流出をしたと。

それからその下のほうの2というのは、10区の中学校から第12区、大町方面に2名流出をしたと、こういう表でございます。これは横のほう、第10区のほうを、今縦に見ましたけど、横に見ますと、つまり逆に言うとうなるかということ、10を横に見ますと、例えば7と10のところにおいて10を横にいきます。7区のところですか、ここに1とありますけどこれはどういうことかということ、7区のところから10区に1名入ってきたと。さらに横に見ていきますと、第10区につきましては6名、第11区から入ってきていると。12区からは入って来なくて、第10区につきましては、その右ですね。県外から18名入ってきていると、こういう表でございます。従って合計25名入ってきて、それから流出が32名ですから差はマイナス7と、こんなふうに見ていただければと思います。

第11区につきましてはどうなりますかということ、縦を読みますと、多いのは第7区の高校に第11区からは134名が流出をしていると。それから第11区からは第12区のほうへ110名の生徒が流出をしているということで、合計、全部合わせますと310名の生徒が流出をしているということです。逆に11区を横に見ますとどうなのかということ、110名第12区のほうに流出はしますが、流入が第12区のほうから200名入って来ていると。こういう表になるかと思います。そして合計が289名が流入をしていると、こういう表になると思います。

第12区につきましては、今、説明しましたとおり、第11区から200名の生徒が流入、流出につきましては、第11区のほうへ110名流出ということで、流出と流入の差はそこにあるとおりということです。ちなみに平成16年度につきましても、大体同じような傾向が見られるかなということで、資料に出しておきましたけれど、見ていただければと思います。

それから、あと学校要覧につきましては、また必要に応じて見ていただければということで、今日は特に説明をしないですが、簡単ですが以上です。

## 6 議事

(中條委員長)

はい、ありがとうございました。

それでは先ほどの全体会の中での説明の内容も含め、2つ今、事務局のほうからご説明いただいたものも含め、皆さんからご意見等がありましたら、お願いいたします。

まずご質問等、最初をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(今井委員)

資料7の表の中で、現状の校数20、全日制が17。多部制・単位制というところへ1校となっていますね。そういうことは、20校現在あるうちで、子どもがいないなりいろいろ残すということで、1校抜かして18校残すということですか。

(西牧主任教育支援主事)

そういう理解でよろしいと思います。



( 鈴木委員 )

本当に数字的なことなんですけれども、今の中の資料 7 なんですが、10 区、11 区、12 区の将来の入学対象者数をトータルで足して、5.5 で割ったものなのかどうかということ、それは何年度を足したものであるのかどうかというのをまず 1 つですね。

もう 1 点は、蘇南高校に勤めているので関心があるのですが、今の資料 11 なんですけれども、この資料はどこが作ったもので、もし事務局のほうで作ったものであるとすれば、流入は県外がありますけれども、流出の県外はどのようになっているか。教えていただくと助かります。

以上です。

( 中條委員長 )

今の質問で。

( 西牧主任教育支援主事 )

その質問ですが、これは平成 18 年度から平成 31 年度までシミュレーションしたものです。具体的に全部合計させてみていまして、実をいうともうひとつ言いますと平成 29 年度からは急激にまた生徒数が減少するものですから、大体平成 28 年度までをめでに大体計算した結果でございます。そこを目指してということでございます。

( 掛川主査 )

私、高校教育課高校改革プラン推進ユニットの掛川と申します。よろしくお願いいたします。

今の数の計算の仕方ですが、最終報告書におきましても、同様の形になるのでございますが、資料 7 に平成 18 年度から平成 31 年度までの推定生徒数および募集学級数が出ておりますけれども、これをすべて足してあげまして、平均したものを 5.5 で割り出したものという形で出ております。ですので今回のこの第 4 通学区の分につきましても、第 10 区、11 区、12 区のそれぞれの、平成 18 年から平成 31 年までの 14 年間の平均の募集学級数を出しまして、それを 5.5 で割り返したものを足してあげたところ 17 になったということで、あくまでも目安、たたき台としてご議論いただくものでございますので、ご了解いただきたいと思います。

それと、先ほど南木曽管内で流出の分、県外へ出た分、場合によっては県外から入ってきた分の関係でございますが、ちょっと手元に中学校の動向の資料が手元にございませんので、これにつきましてはまた次回ご用意させていただきたいと思いますので、ご了承いただきたいと思います。

( 中條委員長 )

ほかにご質問がございましたら。

(小口委員)

いいですか。

私、理解が不足しているものですので、その点お聞きしたいのですが、この協議会、委員会は、いわゆる基本計画ではなくて実施計画をまとめればよいということですね。基本は、この基本プランに沿って進むというものはコンセンサスが得られておられるのかどうか。今、既に各論に入っていますね。それが1点ですね。

それと、私立の高校の議論が全くないんですが、この数字、逆に言えば流出流入も含めて論議するべきなのかしなくていいのか。あるいはデータがないのでできないのか。その辺じゃないかと思うんですけど、その2点をお聞かせいただきたいと思います。

(中條委員長)

はい。回答をお願いします。

(西牧主任教育支援主事)

この会の持ち方ですが、実施計画の策定は県の教育委員会のほうで行いたいと思います。この委員会につきましては、地域の皆さまの意見をいただくための機関として位置付けております。それから私立高校の関係ですが、現在のところ公私の比率につきましては、特に変えるというような話は出ておりません。

(掛川主査)

簡単に申し上げますと、毎年度、募集定員を決定するにあたりまして、公立高校と私立高校の募集定員の枠を、私立学校側と協議をしまして、公立は何割で私立は何割ということで決めさせていただいております。

それで、公立の部分について各学校いくらということが細かく決まっていくのでありますが、この比率、公立と私立の比率については、今後変える予定は今のところございませんので、あくまでも公立の部分にかかわる部分についてのご協議をいただくということでありまして、例えばここに出ております推定の募集学級数なんですが、これにつきましてはもこれまでの、過去の、平成14年、15年、16年、17年の公私比率を考慮しまして、将来の公立に入学するであろう数を基に出してきているというものでございますので、ご理解いただきたいと思います

(小口委員)

この公私比率ね。全マスを、比率を同じとして割ったときに何人公立へ来るであろうという数字ですね。

(掛川主査)

はい、そういうことで。

(小口委員)

それって正しいですかね。

(掛川主査)

当然それは、時代の流れ及び状況、環境等によって変わってくることもあると思いますので、取りあえず想定するとしたら、そういう形であるということで計算したものでございますので、その辺を含めてご意見をいただきたいと思いますので、お願いいたします。

(宮川委員)

ひとつよろしいですか。

今、市長さんの話もあったんですけども、市長さんの話の中では、県のほうでは意見を聞くだけという、皆さんの意見を聞くということでしたね。それは取りまとめた意見ということですかね。先ほど委員長さんは、全員の総意のもとに大体の方向がでなければ、各論の場合は出さないよと、時間をかけてやっていきますよという話で。ところが県の教育委員会の方は意見を聞くためにこれがあるんだから、実施計画等は県の教育委員会で組み立てると。そうするとすごく感覚が違うんじゃないですかね。例えばもしここで各論がたくさん出てしまって意見がまとまらない場合は、意見だけは聞いていけますよね。しかしこの方向性は見出せないということになりますよね。そういう形のものでよろしいのですか。

それからもうひとつ、私ども推進委員会という名前が、先ほど 17 が 18 なのかという数が出ていますよね。そうしますと、この委員会の名前が推進委員会ですから、18 に向かって推進していくのかと。そういう議論になってしまうと、これまたまとめるのに、じゃあ 18 にまとめていくんだよと。そうしますと、委員長さんがおっしゃっている意見を聞くだけのとだいが違うわけですね。

そうするとこの辺の、なんていうか、私はちょっと理解しにくいんで。

(小口委員)

実施計画をつくるための意見聴取でしょ。18 は、ほぼまとめなきゃいけないんじゃないかということで、言いにくいことですが、多分そうなんでしょうね。それは、時間だけ掛けても、無駄な議論をしてもしょうがないものですから、

(宮川委員)

ですからその辺をね、今一度、確かめておきたいですよ。

(小口委員)

ええ、そうですね。

(西牧主任教育支援主事)

推進委員会の役割につきましては、設置要綱にあるとおり 4 点ですか、「魅力ある高校づくり」それから「地域高校の再編整備」それから「総合学科と多部制・単位制高校の設置」それから「その他各号に関連する事項」と。先ほどお話がありましたとおり、委員の皆さまの合意が得られればそれに越したことはないんですが、多数決を採って結論を得るといふ議決機関ではなくて、教育委員会から、検討を依頼した 4 つの事項に関する検討結果を

報告していただくと。こんなふうはこちらのほうでは考えております。よろしいでしょうか。

それから2点目のほうですが、名称のことですが、要するに統廃合だけに限定して推進するという意味ではなくて、高校改革全般について考えていただきたいと。具体的には、どうしてもいわゆる統廃合が前面に出てしまっていますが、「魅力ある高校づくり」とそこについても議論していただきたいと。

先ほど、検討依頼事項ですが、一番最初のところに「魅力ある高校づくり」ということで、一番最初に出ていたと思いますが、そういうことも議論していただきたいということ、で、「推進」という名前を使ったわけです。ご理解いただきたいと思います。

以上です。

(宮川委員)

はい。

時間がもったいないんで、端的に言いますがね、その「魅力ある高校づくり」とかというものを、この1年間で、この委員の中で、どれぐらいのものが煮詰められるかという、これはすごく疑問だと思うんですよ。こんな壮大な目標のものをね、じゃあなぜかといったら、先ほど市長さんが言われた、端的にこれは数なんですよ。数のことは1年で出ます。ただこの、「魅力ある高校づくり」とか何とかかんとか言われる、本当の高校の教育がいかにあるべきかというのはね、本当ここを毎年、毎年もうずっとやっていっていただきたいぐらいですね。ですから、ちょっと端的に言って、数じゃないですか。もうそれで、数のことでもって議論していくよりしょうがないと思った。

皆さま方もぜひ、高校教育はもうすごい今大事なところに差し掛かっているんで、そういう議論も含めてやっていただけると、やっぱり最高にうれしいことなんです。

(中條委員長)

確認いたしますけれども、抽象論をするつもりはありませんが、一応、本推進委員会は、これまで進めてきた高校改革プラン検討委員会の、一応最終報告案が出されていますので、これを審議機関ということで、名称にはあまりこだわる必要は、私自身はないと思っていますが、審議をする場ですので、最初から結論ありということでは、私はないと思っていますけれども。今、宮川委員からありましたが、ひとつは「魅力ある高校づくり」、ここへいろんなジョイント高校から始まって、コミュニティ・スクール等々、幾つかの提言があります。ただこれをやるにあたっては、場合によって、私立なり組合立なりという方式を採るのであれば、それに伴う財源ですとか、もしくはいらっしゃる地域の公共団体のサポートがなければ当然できませんし、従って数ありきではないにせよ、じゃあ生徒も、間違いなく減っていくという事実にはどうしたらいいかということで、場合によっては最終実行計画をつくられる立場とは違うものが、この委員の皆さんの中でまとまるかもしれませんけれども、それはそれで、我々に託された以上やむを得ないのではないかということとは、これは委員長というより個人的な一委員という立場で申し述べさせていただきます。

いずれにしても、ここでは、1つは連携校なりジョイント校なり中高一貫校なり、またこの形式でなくといった違う方式での高校づくりの検討と、それから最終的にはというこ

とになりますけれども、検討にあたってのワーキンググループということで、やはりどうも数で議論しかないということで、一応目安が出ておりますので、それに関して、この旧通学区 10、11、12 ですか、第 4 通学区としての意見を、学年学級数も含めて意見を出していく必要もあるというふうに思いますし、それから各 4 つの通学区に求められている、第 4 通学区は総合学校は既に塩尻志学館に設置されていると思いますけれども、それも含めた多部制・単位制高校も合わせても、検討も審議委員会、推進委員会としての結論付けをそこに付けようということで、17 ないしは 18 を前提にした議論をする必要があるのか。事務局に、お願いします。

（西牧主任教育支援主事）

事務局のほうとしては、最終報告では、再編整備のための校数決定基準により、76 校を目安とするという提言が出されていますが、教育委員会として、この目安としての 76 校はそれなりに重みがあると、このように考えております。従いまして、それと同様に考えられている通学区ごとの数字につきましても、最初から 17 校ですか、17 校より多いとか少ないかという議論ではなくて、17 校を目安として具体的な、この第 4 通学区での県立高校の在り方を十分検討していただければと、こんなふうに考えています。

よろしく願いいたします。

（鈴木委員）

あの、委員長さんの意見と私は似ているんですけども、事務局の言うことは、ちょっと違うんじゃないかと思うんですね。と言いますのは、この最終報告を出したプラン検討委員会の中でも、長野県はやっぱり長野県としての 1 つの固まりとしてみることは難しいということで、そういう中で、細かなことについて、というのはこの 4 点ですか、大きな 2 点ということになると思いますけれど、魅力と適正配置ですね。これについては 4 ブロックごとの審議機関で検討するということが、やっぱり求めているわけですね。さらに細かな旧 12 通学区にも部会を置くということについても言及してるわけで、県教育委員会事務局は、委員会の教育委員会の求めに応じて、4 通学区の数は出したんですけども、これはやっぱりこの最終報告からみればやり過ぎたことではないかと思うわけですね。だから、我々がこの最終報告を基にしながら、最終的に何校になるのかということが、中身の議論なんかをした上で、出てくるものであって、もう既に 17 校あるいは 18 校ということに向けて、2 校あるいは 3 校を減ずるためにどうするのかという議論は、しないということだと思うんです。

私は、この第 4 通については他のところと違うと思っているのは、非常に南北に長いということですね。第 1 通学区だとか第 2 通学区とかなり違う。第 3 通学区はやっぱり南北に長いということもあるんですけども、諏訪岡谷と伊那と飯田という、3 つの極を持っているんですね。この第 4 通学区は松本市と塩尻という 1 つの極があって、その周辺に長い農山村が続いてるわけで、そういうのを考慮したときに、恐らく県とすれば 1、2、3、4 通学区で、21 校、15 校、22 校、17 校ということについても、そういった違いに配慮することなく同じ基準できっと割り出していると思うんです。

従って、17 校がもしかして正しい結論になるかもしれないけれども、やっぱりここでは

もう少し地域の状況だとか、あるいはその魅力づくり校をどうように配置するのかということも含めながら、結果的に何校になっていくのかということは、その結果であって、17校にとらわれるということはやっぱり、最終報告の言っている意図にも反するものではないかと思うんですけど。

（中條委員長）

先ほどいただいた事務局からの議事案で見ますと、これに向けて何をするということが特に決まっております。意見を、質疑応答ということが書かれておりますので、今のお話でいきますと、2度3度、10回ほどになるかもしれませんが、やっても同じ議論の繰り返しになりますので、第2回以降は、わざわざ長野まで来なくとも、白馬と南木曽の間辺りになるでしょうか、その近辺でということだと思います。

そういう意味で、今日は第2回以降に向けて、どんな議論の進め方をしていくかということで、今、鈴木委員からもお話がありましたが、そこで幾つかいろいろな意見を出していただいた上で、事務局と委員長、副委員長のほうで今後の進め方について、できましたら事前に話をさせていただければと思います。

従って今日は、一定の方向性が出ないかもしれませんが、次回以降の検討に向けて、ぜひ忌憚（きたん）のない発言で、かつ、またこれがベースになりますので、作られた資料、それから作られた報告書について、先ほども少しご説明がありましたが、ジョイント高校なりコミュニティ・スクールですか、字句の理解が、第2回以降の共通のスタートになりますよう、その辺の質問も、もしありましたら、それも含めて出していただければと思います。

事務局から、今日の進め方につきましてご指示が何か、ご意見でもございましたら、よろしく願いいたします。

よろしいでしょうか。

（西牧主任教育支援主事）

はい。

（中條委員）

はい。それでは、ご質問、ご意見も含めてで結構ですのでお願いいたします。

（丸山委員）

じゃあ、お願いいたします。

1点目は、すべて公開ということなので、この資料の扱いについてですけど、私はたまたま校長会の代表ということですけど、担当は木曽塩筑、松本、南北安曇とあるわけですが、そういうところにこういうものは印刷して配布しても構わないかということの確認と、2点目は、次回以降例えば企業で、金融機関でいえば、支店の数を減らして効率化を狙うというのはあるわけですけど、利用者からいいますと不便になるわけですね。一番の2回以降の議論のポイントは、このサービスというか子どもたち、生徒にとって何がベターなのかという、これの視点でいつもいかなきゃいけないかなと、そんなふうに思う

わけですが、そんな点でまたご意見を皆さんに伺えればなと思いますけど。

以上であります。

（中條委員長）

今いただいたご質問というか、その対処につきましては事務局からあればお願いします。

（掛川主査）

先ほど冒頭に、委員長さまのほうから当該推進委員会につきましてはすべて公開で行いまして、議事録につきましても公開していくということで、皆さまのご了解をいただいたところでございますので、当然ながらこの資料につきましては、今回の推進委員会の資料であるということで、県としましてもホームページ等で公開をしてまいりたいと思いますので、それぞれのお立場の場所で資料をお示しいただくことは、問題ないと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

（中條委員長）

はい、ありがとうございます。

ほかにございませんでしょうか。それぞれお立場はおありだと思いますので、保護者の視点等々含めてお願いできれば。

（小口委員）

これ、既に市町村合併は、年内に決まって。いや、決まっていると語弊がありますが、そういうことがあるんで、それを重ね合わせてしてしまえば、もっと分かりやすいと思うんですよ。この対象を見るときにね。それも用意してもらったほうがいいと思いますね。もう、ほぼ99%決まっているところだけでも結構ですから。

（鈴木委員）

資料のことにに関して、事務局から用意される資料以外に、私どもでもいろいろ研究したりして資料を持って行くことは構わないですか。

（掛川主査）

ご依頼等ございましたら、現在設置されている市町村合併協議会等の配置状況とか、そういったものの資料ということのご要望だと思いますけども、そういったものを、事務局にご指示いただければ、次回ご用意させていただきますし、なおまた、各委員さんにおかれまして、これはというものがございましたら、事前に事務局にもちょっとご相談をいただければ、大変ありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

（下川委員）

今回は少子化に向けてとか、そういう意味合いでのデータをベースにいろんな資料的なものを用意されていると思うのですけれども、今のところ数だけのものであって、いろんな高校の魅力ある高校づくりだとか、そういうことをも含めれば、実際はその予算、言っ

てみればどれだけ教育に投資するかということがこの中では何もないわけですよ。それを行っていく上で、教育に投資するものの予算的な裏付けと申しますか、そういうものもある程度参考に出されたほうが、全体的にただ縮小するだけではなくて、これだけ投資してどうだということも、資料といいますか、この会議の中でもある程度示された方がいいのではないかなというふうに思うのですけれども。

（中條委員長）

それは今、県の教育委員会として、将来を踏まえての道筋が決まっていらっしゃるのでしょうか。例えば、たたき台として。

（掛川主査）

今、予算的な裏付けというお話だったのですけれども、将来の見通しということになるかと思いますが、過去のこれまでの経過というものでありましたら、本日はご用意していませんけれども、次回までに、これまでの県全体の予算がどれだけあって、そのうち教育費がどのくらいだというものについて、これまでの経過というようなものはまとめることができるかと思います。

将来的なものについて細かいことまでどうなのかというものについては、それぞれの状況にも応じますので、数的に出すのはちょっと難しいのかなというような状況でありますので。過去のものにつきましては、ご用意させていただくように考えたいと思いますが。

（中條委員長）

民間企業の場合のリストラをする場合は、収支状況を明らかにして、伸びて収益が上がれば問題はありませんけれども、それが伸びないとすればこうなるという一応のシミュレーションをしないと納得感はないのですが、予算と効果は県の立場ですと随分違うのですけれども、この資料の中に9割が人件費であるという部分が位置的にあります。現状を見せていただくことは可能なのですか。例えば県の教育費のうち、何割が例えば高校にかかる費用で、そのうちの例えば人件費がどのくらいという、数字というか、内訳比率でも構いません。民間ではありませんので、単に赤字になったらつぶすということではなくて、数が、高校の生徒さんが減ったからということのほかの面で裏付けといいましょうか、納得できるような資料としてはありますか。

（掛川主査）

それは過去のものというお話でしょうか。

（中條委員長）

将来が難しいというお話でしたので、現状までの何かありませんか。



(掛川主査)

はい。作るには若干お時間をいただくような話になるかと思いますが、その内容等につきましても、持ち帰りましてまた検討させていただきまして、可能であればお示ししていきたいと考えます。

(中條委員長)

逆に言うとP Lというか、損益計算書があると一番いいんですけど、多分そういうものはないと思いますので。

(掛川主査)

先ほど申したのは、県全体の予算もしくは決算になりますが、内教育費がどのぐらいで、さらに、学校の運営費とか人件費とか。先ほど9割程度は人件費という話を委員長からいただきましたが、実際、大体そのぐらいなものでございますので、その辺の資料につきまして出すことが可能であれば、またお示ししていきたいと思います。

(中條委員長)

事務局の方に、もし可能であれば用意いただきたいというような資料がございましたら、いったん挙げていただいて、可能なもの、可能でないものが当然あると思いますので。

ほかはよろしいでしょうか。

(百瀬委員)

お願いします。「『魅力ある高等学校づくり』に関する事項」というのが、この検討事項の最初にあるわけですね。この委員会での。それからあと、2、3、4と。これをどういう形でこの委員会。順番に審議していくのか、あるいはあっちへ行ったりこっちへ行ったりというようなこともあり得るのか。そういうようなことを少し整理しておかないとまずいなというようなことを感じているのですが。例えば今の資料の問題にしても、「魅力ある高校づくり」に関する資料といえますと、これもかなり膨大なものになりかねないと。例えば他県の既にできているいろんな学校の例とか、コミュニティ・スクールとか、ジョイント高校とか、いろいろありますよね。ですから、そこら辺の資料もどの程度用意してただけなのか。それによってその「魅力ある高校づくり」についての審議という、時間も限られている時間の中です。

私も何か漠然としてイメージがわかなくているのですけれども、何かその辺の今後の進め方というのですか、それから会議の回数も、月に1、2回程度ということなのですが、なろう事なら、何カ月か向こうまでのスケジュールをある程度押さえておかないと、それぞれ皆さん、仕事があったり立場がありますので、会議に参加できないというようなことだと困りますので、その辺の見通しもある程度付けていかなければいけないかなと。そんなことも、ちょっと感じていることを申し上げたのですけれど。どんなふうに整理していったらよろしいか、検討していただきたいと思います。

(今井委員)

今のご意見と似たようなことになると思うのですけれども、せっかく我々も日曜日をこういうふうにして来ているわけですから、結果の出ないような会議には参加したくないのですね。企業ではそんなことはまずありません。

それで、検討事項というのはものすごく明確になっているという気がしまして、事務局から出されている資料の4に、「推進委員会への検討依頼事項」ということに、明確になっていると私は思ったのですが、これは違うのですか。例えば「魅力ある高等学校づくりに関する事項」ということで、この文書を読む限り、全体のところについての論議をしてくれというふうにはなっていません。

1つは「連携型高校、ジョイント高校、中高一貫教育校、コミュニティ・スクールなどの設置の可能性について論議してください」というのですね。それでもう1つとしては、「その他、報告書の中に記載のあるさまざまなアイデアを参考にしながら魅力づくり」というアイデアはどうか、ということをお願いされているわけですね。その下については、結局、総数の決定基準というものがうたわれているようですけれども、その中で「再編整備に関する事項」ということで、「このような3つの大枠なルールに従って再編を考えるとしたら、どういう再編案があるのですか」ということを検討してくださいというように、明確に書いてあると思うのですけれども。

今論議されているご意見を聞いていますと、私が最初にいきなり何か細かいところに入られたという話を聞いたので私は資料の意味を確認しただけであって、それを論点にしようと思っているわけではない。そのところはまず押さえておきますけれども、要は我々のこのプラン推進委員会はこの前の改革プランの検討委員会ですか、そこと同じ論議をしてもしょうがないわけですね。そこをまず明確にしてもらいたいのですけれども。そこを明確にしない限りは、この報告書に至る経過のことを、もう一度この推進委員会でやらなければいけなくなる。それは不毛ですね。元に戻ってしまうことです。進まないのですよ。

(中條委員長)

今の今井委員の話については、私もこの中で、ではここで何をやるのかという前提を最初お話しになったときに、まったく同じ資料4を見てお話をしたつもりですので、そういう意味ではこの改革プランを踏まえて、ここにある大きく分けて2つということでしたけれども。魅力づくりとそれからその20の17ということが、ありかどうかは別として、総数の決定について、この第4という新しい通学区としてはどうするのかということを中心では審議をしていく。

ただ、できないというだけでは駄目だと思いますから、それに関してはやはり、我々が最終責任を持つのかどうか分かりませんが、じゃあ違う代案を出さないと、やはりいけないのだろうなという、そこまでやはり踏み込むべきだと思います。場合によったら、私立なり組合立なりという提案があってもいいのかもしれませんが、その代わり校数をどうするのかとか、そういうところまで踏み込まないと駄目だと思います。

( 今井委員 )

逆に、大枠のルールはこういうふうになっているけれど、極端に言えば学校数というのはそのまま維持ということもあり得るわけですよ。その学校の1学年6学級に想定というのはね。ところが1学年3クラスのほうがもしかすると教育効果はこういう意味で上がるのだと。だったら1学年3クラスぐらいの学校を増やそうとかいう見方もできるわけなのです。だけど、そこまでの発展的な論議というのは、多分この場での推進委員会というところでやっていくしかないという気もするのですけれどね。

現実にはそういう学校もありましたが、やっぱり何事にもそれを運営していくだけの原資というのが必要であって、その原資から見ると、基本的には学生数が今はピークの40%減となっていますね。そうすると、我々の企業で考えれば、営業所の数は基本的には4割減以上にはしないとやっていけないですよ。集約した部分にそれだけやっぱりコストがかかってくるというのがありますので。それを考えると、高校数というのは数はあまり口にしたくないですけども、ある部分は落としていかないと、逆に教育の質にもかかわってくるというふうになってくるので、そういうのも前提とした配置案を、ここで本当に考えなければいけないのではないかと。そういうことも含めて。

県費は、多分むやみやたらと使えるわけではないので、このままの学校数、教員数を維持していけば、基本的には今の逆算すれば簡単に出るわけなので、ピークのときと違って、1人あたり1.5倍ぐらいの経費が今はかかっていると。ということは推論できるわけなので、ではそれをそのままにしているのかという見方もあるので、そういった面でも考えていくと、やはりある部分の、ここに書いてある中でこういった配置案をつくり出すかというところは真剣に、多分ここがポイントになるのではないかと思いますけれど、やはりここで何を話し合っていくかというのを、もう少し明確にさせていただいた方がありがたいです。

( 中條委員長 )

今日はこの辺のことは結論は出せませんし、進め方についてはいろいろ今、ご意見をさせていただいた上で、次回までに事務局のほうと打ち合わせをさせていただきます。それから、次回以降に提示してほしい資料があれば、それについて可能かどうかは別にしてぜひ出していただきたいと思います。一応次回以降のスケジュール設定の際にということでしたので、あと正味30分ぐらいの中で、できるだけご意見をいただければと思いますが、よろしくお願いいたします。

今のお話の中で特に事務局のほうから何かご意見等ございましたら。よろしいですか。それではほかのご意見がございましたら。

( 下川委員 )

この部会というものについては、設けるのか、設けないのか、どういうふうにするのかということがあるのですか。

（中條委員長）

改革プランの21ページに一応、場合によっては部会をというのは記載されておりますけれども、まずこの中でというよりは、事務局としての部会の位置付けなり考え方なりを聞かせてもらいたいと思います。

（西牧主任教育支援主事）

設置要項に記載のあるとおり、部会については設けることができるという規定になっています。現在のところ、部会の設置につきましては、この推進委員会として何を部会に下ろして検討していただくのかを明確にしておく必要があるのかなと。ただいたずらに部会を設置してもいけないかなと。現段階では、この推進委員会でまだ何も検討もされていないものですから、部会を開催するのはちょっと現段階では難しいかなとこんなふうに事務局では考えておりますが。

（中條委員長）

下川委員のほうから、何か部会についてご意見がもしございましたら。

（下川委員）

いや、僕も最初に言ったのですけれども、それぞれのこの広い地域の中で代表と言われても、他校、他地区のことについては分からない部分がいろいろとありますので。

やはりそれぞれの地域や学校の歴史や伝統とか、いろいろなことを含めれば、それぞれの旧12学区の、この中で話が提案された場合に、そういうところは必要性が出て、もし部会ができたとしたら、この推進委員会とのかかわりがどうなのかなというのがあると思うのですけれども。逆にまた下げると、さっきの話じゃないのですけれども、逆戻りする可能性も出たりとかあると思うのですけれども、いろんな意見を聞くということであれば、そこに住んでいる人たちの意見というのは率直に分かるわけですから、そういうところとの関連性はどうなのかなという意味合いなのだと思いますけれども。

（中條委員長）

いずれにしても部会のイメージは地域、地区というイメージでおっしゃるのですか。

（下川委員）

部会というのは基本的に12通学区ということですよ。

（中條委員長）

例えば、検討するテーマごとの部会ということもあり得るかもしれませんし、地域、地域のより実情をということで、旧12、第4通学区でといえ、さらに3つの部会をというの、可能性としては当然あり得ると思いますけれども、今のご意見は地域ごとのさらに分科会をつくったほうがいい場面もあるかもしれないというご意見でよろしいですね。

(下川委員)

現実にその数とか、いろいろそういう極論と言いますか、話が出た場合には、当然そういうところからの話というのにも必要がある場合もあると思うのですよね。ただ、その流れによっては必要が生じてくるので、そことの兼ね合いは、委員会と部会とがどうかかわりあいになるのかというところがよく分からないのですけれど。

(中條委員長)

それはこの場で決定する必要は。

(下川委員)

ないと思いますよ。

(中條委員長)

それでは今後必要があれば、部会という位置付けも整理をして設定をするということで理解をしておきたいと思いますが、それでよろしいですか。ほかにご意見ございますか。進め方等で結構ですからよろしくお願いします。

(今井委員)

ひとつこの報告の中にうたわれている言葉で、この検討依頼事項についても「総合学科高校」とか、「多部制・単位制」。「多部制・単位制」というのは先程の話でわかったのですが、「総合学科高校」というのはここに説明があるのですけれども、今の志学館高校さんでは何を目的にこういう総合学科制というものを入れたのだろうか。究極的に、一般的な総合学科と言われる学校は、何をその学校のうたい文句、PRとしてやっていくのかとか、その辺のイメージをつかみたいのですけれども。

普通科と大して変わらないのではないかなと思うのですけれども。

(中條委員長)

もし資料等といいますか、説明等を今日もし可能であれば。

(下川委員)

要覧に出ていないですか。

(中條委員長)

この、分厚いものですね。

(下川委員)

今の塩尻志学館高校3番ぐらい、4番目にありますよ。出ているかどうか、ちょっと分かりませんが。

(西牧主任教育支援主事)

では、私のほうから要点を言いながら見ていただこうかと思いますけれども、総合学科については、普通科、それから昔は職業学科というように言ったのですけれども専門学科、これと異なる新しい第3の学科として平成6年度から制度化されたものです。

いわゆる総合学科で行われる文部科学省のほうでしょうか。教育の特色として2点挙げられております。1つは「幅広い選択科目の中から、生徒が自分で科目を選択し、選ぶことが可能である」と。そのことが結果的に生徒の個性を生かした主体的な学習を維持することにつながるのだと。

それからもう1つは、「将来の職業選択を視野に入れた、将来の進路や課題を考えた、学習を維持させる」と。この2点が総合学科の特色として挙げられています。

導入の趣旨ですけど、当初は普通科と専門学科の2学科制でしたけれども、いわゆる現在の高校生の、能力・適性、興味・関心、進路等の多様化に対応することが、いわゆる普通科と専門学科では困難であると。

それからもう1つは、従来普通科は進学、それから職業学科は就職という固定的な考え方が、学校の序列化やあるいは偏差値偏重の進路指導の方の問題を生じさせていると。こういう考え方がありまして、普通科と職業学科とを統合するような新たな学科を設置したと、こういうことのようにあります。

特徴としましては、一応、5点から6点ほどあるでしょうか。1つが普通科と違いました、進路ガイダンスが充実している。それから2番目として、選択科目はとにかく幅広い。それから3番目として時間割は自分でつくる。それから4点目として、学習システムが柔軟である。それから5点目として、学年制ではなくて単位制が導入されている。このようなところが特徴として挙げられるのではないかと、こんなふうに思います。

(今井委員)

はい、分かりました。

(西牧主任教育支援主事)

それから志学館高校の学校要覧でしょうか。

(中條委員長)

前から4冊目です。

(西牧主任教育支援主事)

よろしいでしょうか。

6ページのところに、自己実現ということで、その1として、塩尻志学館高校の特色というようなことが挙げられています。これが全部そのいわゆる総合学科の特徴になるのではないかと、このように思います。

総合学科につきましては、アとして、「今までの普通科と専門学科を統合した新しい学科です」と。「個性を尊重し、海のように優しく大きな包容力のあるシステムです」と。それからイとして、知識の幅をはぐくむということで、選択科目が幅広いと。そこに書いて

あるとおりです。それから、時間割につきましては、先ほど言ったとおり、自分でつくりますと。それから、エとして「ガイダンス機能の充実」、それからオとして「学習集団」、「学習の形態」、あるいは科目の選択における系列。それから７ページのほうに行きまして、普通は３学期制ですけども、２学期制を採っていると。それからエとして、単位制を採っているというようなことが挙げられていると思います。

よろしいでしょうか。

（下川委員）

これは移行したときに、結局専門科目を増やしているわけですね。専門科目を増やしているということは、学校の教員数にすると、配置が増えたわけですか。

（西牧主任教育支援主事）

配置は増えております。

（下川委員）

増えているのですか。

（吉江高校教育課長）

専門学科の場合で申し上げますと、普通科に比べますと配置は増えます。今ご覧いただきましたように、どうしても単位が多くなりますので、ある程度増えますが、たまたま塩尻志学館高校の場合で申し上げますと、以前が農業科とか併設されておりましたので、その絡みで見ると全体的に増えるかどうかというのはありますけれども、例えばの話が、普通高校が総合学科高校になりますと、結果としてはある程度以上先生の数が増えるということになります。それからさらに申し上げますと、若干専門的でいけないのですが、高等学校の場合には、文部科学省のほうで決めましたひとつのいわゆる教員の配置基準というものがあります。それで、教員の配置基準の中で、いわゆる総合学科高校の場合には加配分、加えるに配分で「加配」という言い方をしているのですが、加配という形である程度以上の先生方のプラスということが認められているという状況になっているのでよろしく願います。

（中條委員長）

総合学科以外にも、方式等で個別も名前も挙がっていますので、もしご質問等ありましたらお願いいたします。

（鈴木委員）

ちょっと、複雑な問題なのですけども、第四推進委員会とすれば、今井委員のご発言にあったように、志学館高校が設置されているので、この議論についてはもしかしたら、ここは必要はないのかなという気がします。

ただ、さらに踏み込んでやるとすれば、塩尻高校が志学館になったわけで、塩尻高校は普通科と農業科と家政科とがある学校でした。それを総合学科という形の、バイキング形

式の教育課程をつくらなければいけないということで、総合学科形式というのを入れたのですね。これは他県の例などを参考にしながら入れたのですけれども、これで十分な教員の専門的な配置があったかという問題もあって、かなり無理な科目の持ち方をしているというのが実態だというふうに聞いているのです。だから、ここで第四推進委員会でもしそこまで踏み込むとすれば、志学館は総合学科としてあるのだけれども、現状はどうかということを知って、事務局がつくる実施計画の中に、その改善といえますか、そういうものについての提言ができればと思うのです。

あともう1つ、多部制・単位制についても、この第四推進委員会にすれば、松本筑摩高校に、多部制というふうに言えるかどうか分からないにしても、昼間定時制と夜間定時制とがありまして、お互いに単位制を採用していますから、それを多部制・単位制というふうにカウントしようと思えばできると思うのです。ただ、独立校ということであると、筑摩高校が今、全日制課程もありますから、その部分をどうするかということの議論が出てくるかと思うのですけれども、多部制・単位制については一定はクリアされている。

となると、課題はいわゆる魅力づくりで、「最終報告」に示されているところの、さまざまなタイプの学校が必要なのか必要でないのかというような、あるいはこういう学校をこういう形で配置すれば、4通学区としての、いわゆる高校改革になるのではないかという議論が生まれて、その結果として、この学校をどうするのかという配置の問題ということになっていけばいいのかなというように思うのです。

だから、そういう面でいうと、第四推進委員会は他の3委員会に比べると比較的気楽な委員会でもあるかなと。ただ、先ほど言ったように、南北に長いという状況で、農山村部がほかの1区、2区に比べたら多いので、その辺の配慮をしていくということが難しい問題かなというふうに私は考えています。

(中條委員長)

ほかにご意見はありますか。

もしまだご発言されていない委員さんがいらっしゃいましたら、今後等に向けて、ぜひお話をお願いします。

(長谷川委員)

私は中学校の立場ですので、どちらかというところに行く生徒の立場に立ってしまうのですけれども、今の総合学科については非常に人気が出てきて、自分たちで選べるのが非常に魅力的で、将来のキャリアというのがこちらに載っていましたが、それに向けて非常に前向きに受けたいという気持ちの生徒が非常に多いと思います。

他郡からも非常に受け入れが大きいところもあつたりとかして、やはりお話であったとおり、それについてはもうある程度はクリアされているのかなと。少しは軌道修正があるのかもしれないのですけれども、ただ1点この推進委員会とこれまでの検討委員会とを考えたときに、検討委員会の面々を見せていただくと、非常に長野県の関係者が少なく、これはアンケートの中にもあったと思うのですけれども、結局、実態を把握しながら構築していこうというような推進の仕方ではなかったように思うのです。

そこは先ほども話が出ているとおり、1回やっぱりここで推進委員会ということで名前



は変わっているのですけれども、これだけ現場の方々、それぞれの県教委の方がいたりなどするので、もう一回将来の見通しを持った中でやっていかなければいけないというのが1つと、やはり、数字がぼんと出てきてしまったことで、特に各高校実際にそうだと思うのですが、「おう、うちはどうなるんだ」という不安だったりとか、「あそこの高校はどうなるんだろう」というような不安が過剰にあおられていく印象がありまして、それについてもやや残念かなと。もうちょっと展望をしっかりとった上で、現場でもこういうふうにやりたいのだというイメージがあって、例えば多部制を「じゃあ、そこをお願いします」というのなら話は別ですけれども、そうじゃないところで、こういうことができる、ああいうことができる、ここはあれがやればいい、ここはこれがやればいいということを単に杓子定規に切るだけでは、やはり本当の意味では高校は出来上がっていかないような気がするのです。だから、その意味でも、さっき部会という話も出たとおりで、もうちょっと現場の感覚に立ったところも大事に進めていったらいいかなあというふうに個人的には思っておりますけれども。

(中條委員長)

いかがでしょうか。

今回のスケジュールリングは最後にやらせていただきまして、先ほどのお話にありました今後のスケジュールの進め方ということで、今、事務局として考えられていらっしゃるイメージがおありでしたら、ぜひご紹介いただきたいのですが。

一応全体会の中では月1回、2回程度、12月までに我々に求められている審議会としては、「魅力づくり」とそれから「総数の決定基準」に基づく再編についての何かしらの考え方をまとめるということで、各地区多少足並みがそろわない部分は1月にずれ込んでもやむなしというのは、全体会で出ていましたと思いますが、それについて、この地区としての進め方で、もし補足等ございましたらお願いいたします。

(西牧主任教育支援主事)

事務局としては、先程申し上げた形でお願いしたいと考えています。

(中條委員長)

そうですか。

では、月1回、2回で、12月までには決めなければならないという前提で。2月、3月にずれ込むことはまかりならないということによろしいわけですか。

(西牧主任教育支援主事)

はい。

(掛川主査)

あくまでも先ほど全体会の課長の説明の中でも、場合によってはということもあります。そういう意味でカッコ書きで12月という書き方をさせていただいているところがございますので。ただ、全体的なスケジュールもございますので、おおむねそのあたりでとい

うことでお願いできればというふうに考えているところでございます。よろしくお願いいたします。

（中條委員長）

いずれにしてもそのスケジュールを見ますと、18年度からの実施に向けてということ考えてこられていらっしゃるわけですね。したがって、仮に2月、3月、来年度にずれ込むということはもう想定されていないわけですね。したがって、もし第4通学区という言い方が当たらないかもしれませんが、この我々のブロックとしては、仮に12月もしくは1月まで回数を掛けても意見がまとまらなければ、まとまらなかったということで報告をします。

（掛川主査）

先ほどのお話にございましたが、この部分については一定の合意がされたけれども、この部分についてはこんな意見があったということで合意はされなかった、という部分もあるかもしれませんが、やはり12月ごろを目途にご審議いただきまして、そういう意味で一定のものを合意していただければというふうに考えております。

（中條委員長）

その点について何か要望、ご意見等ございましたら。

（藤本委員）

今井委員さんから先ほどご意見があったのですが、せっかくこういった推進委員会というものができて、それでこれだけの人たちが集まって時間を掛けてやるのですから、4通学区の教育の将来像を考えて、どういうものが望ましいかというものをやはり出さなければいけないと思うのです。やったことが無駄になるような会議だと、非常にまずいのではないかという感じがするのです。だから、何も見えないような会議にならないようにしていかなければいけない。

そういった意味でいろんな具体的な資料といいますか、資料4に「検討依頼事項」というのがあるのですが、私はこれはやはり大事にしなければいけないと思うのです。戻ってはいけないと思うのです。今まで高校改革プランの、こんなようにまとめがこういうふうに出されて、そして検討依頼がここへ出ているものですから、これを大事にしながらいろんな意見を出し合って、4通学区の魅力ある教育の将来像といいますか、そういったものの見通しが出ればいいなという気持ちが、すごくしています。

（中條委員長）

ご意見ございますでしょうか。

(野口委員)

何校もある学校の実情といいますか、どんな学校であるかというようなこと。魅力ある学校にするためにというのですが、きっと皆どの学校も魅力あるものは持っていると思うのですね。そういうものを知ることも大事なのですが、ちょっとそういう立場にいないものですから、分からないことが多いのです。そのようなことはどのようにしていったらいいのでしょうか。

ここに学校要覧がありますね。これを見るとき、そんな方法なのでしょうか。その辺をちょっと教えていただきたいのですが。

(中條委員長)

事務局から、それに対して何かないですか。

例えば各校いつ来て、いつ見ていただいてもいいですという日を出すということですとか。物理的に全校を回れるかどうかは別として、もし仮に訪問したいというご希望があれば、そういう学校もおありでしたか。

(西牧主任教育支援主事)

そうですね。授業公開という形でホームページに掲載されているとか、ございますが。

(今井委員)

うかつにどこか一定の学校だけ行くと、ちょっとまずい印象が出てくるので、そこはちょっと学校選びは慎重にさせていただいて、全部行くのならいいのですけれども。

(中條委員長)

多分このメンバーは全員でということではなくて、各委員のかたの立場で、そういうことが可能であるか、もしくはそういう機会があるか、もしくはどんな方法があるかというご質問でよろしいですか。

取りあえずは学校要覧なりの資料と、それから地元中心になりましょうか、地元を含めて学校公開ということでやっていらっしゃる学校もあるよということですので。それはホームページを見ないと分からないのですか。

(西牧主任教育支援主事)

そうですね。次回までにその辺のところを。

(中條委員長)

では、一覧か何かを作ってください。

(西牧主任教育支援主事)

そうですね。分かりました。

(中條委員長)

ほかに何かもっとご意見はありますか。

いずれにしても、月に仮に2回やるとしても10数回の設定になります。先ほども述べましたように、できるだけ求められている、検討を依頼されている事項について、この14名でございますか、第4ブロック、第4通学区として、魅力づくりとそれから20校という数の問題につきまして、我々としては結論を出すべくその10数回を設けさせていたきたいと思います。

今日は5月末ですので、次回はもう6月から、正式な会の都度のテーマも決めさせていただきながら、それに沿って資料も提示いただきながらの議論を深めさせていただく前提で進めてまいります。

6月の次回に向けて、今日はいったん日曜日ということの開催でございましたが、それもお話がありましたように、それぞれまた別の責務を持ちながらも今日もお休みをつぶしていただいたのですが、それについて、今後の進め方についての要望等がもしございましたら。

(宮川委員)

ひとつよろしいですか。次回のときに、私は魅力ある学校づくりということと、それぞれの皆さんの意見をまとめるのではなくて、意見を出していただく。みんなでもって魅力ある学校はこういう学校ではないかと出していく。その意見を集約しなくてもいいと思うのです。それにのっとれば、では数はどうだというのはまた行くので。そういう段階のやり方でやらないと、今は数のことはちょっと出すのをやめようよと。校長先生も言われましたけど。魅力ある学校は何だということ、子どもたちにとって魅力がある、親にとって魅力がある、あるいは地域によって、企業によって、みんな魅力は違いますから、だからその意見を皆さんになるだけ出していただいて、そういうものを議論する中で、ではこういう魅力あるものをカバーしていくためにはどの程度の学校の規模が必要だとか、またいろいろ出てくると思うので、そういう段階をおって進めないと、テーマがたくさんあると、たくさん飛んでしまうような気がするのです。ぜひ次回には、魅力ある学校とは何だろうというような、ここの委員の皆さんのご意見が出られるようであればうれしいかな。また、聞かせていただければうれしいかなと思います。

(中條委員長)

はい。

(宮川委員)

ひとつ提案ですから。

(中條委員長)

ほかに次回の内容でも結構ですし、曜日等を含めた設定スケジュールについてでも結構ですが、特にご要望があれば。よろしいでしょうか。

それでは次回の設定について、事務局の方からの案がございましたら。

取りあえず6月は2回ほどを前提にやるということによろしいですね。何かご意見ありますか。曜日については、また休みを使うという、全員のご理解いいですか。

日曜日がよろしいですか。ほかの皆さんもそれでよろしいでしょうか。

(小口委員)

委員長さん、6月は議会の関係は、どちらも議会がある月なものですから、なかなか難しいと思いますが。

これは出る場合は代理は要るの、要らないの。

(中條委員長)

本人ですね。

(掛川主査)

はい、本人です。ご本人にご委嘱させていただいておりますので、代理はご遠慮いただきたいと。

(中條委員長)

では事務局のほうから、次回について、こんな曜日、スケジュールでというのがございましたらお願いいたします。

(西牧主任教育支援主事)

委員会の中でご審議いただければと思いますが。

(藤本委員)

ここにいろんな資料がありますね。それで報道や何かを見ていると、教育委員長さんのほうから今度の定例教委のときに、県の事務局のほうへもう少し具体的な資料を出してほしいという話も報道されていますので、そういったものも見ながらやっていただかないと、集まってもなかなか前へ出て行かなくて、そういう会議の密度というものを考えたときに、定例教委よりはもう少し後にしていただいたほうがいいのではないかなと私は思っています。

(中條委員長)

それはいつごろ予定されているのでしょうか。

(掛川主査)

次回の教育委員会定例会は6月の14日ということで予定をされているようです。

(中條委員長)

それは県の教育委員会の定例会ですか。

(掛川主査)

そうであります。県の教育委員会の定例会になります。

(中條委員長)

そうすると、今回は6月15日以降という前提でいいですか。

(掛川主査)

ただ今のご意見に添うと、そういうことになるかと思います。

(中條委員長)

今のお話は、14日の定例会という言い方でよろしいのですか。

教育委員会の定例会の中で、さらにこのテーマについての議論がされるので、それを踏まえてのその後の議論という理解でよろしいわけでしょうか。ということで、6月、2回というか、15日以降、中旬以降の設定のほうが、次回に向けてはいいのではないかなというご意見でしたが、議会の方は、土日だったらよいでしょうか。

(百瀬副委員長)

土日の中でも、土曜日の方が、個人的にはいいと思うのですが。

(中條委員長)

日曜日よりも。

(百瀬副委員長)

日曜日よりも土曜日のほうが、こういう会議はいいのではないかなと思うのだけど。

(小口委員)

こっちのほうは特に地区の行事があるので。私らの立場で言うと。

(中條委員長)

中旬までに終わってしまうということなのですけど。議会は6月ずっと続くわけですね。各市町村。

(宮川委員)

それぞれ違いますから。

(中條委員長)

そうですか。

(宮川委員)

私のところは、6月の中旬から7月にかけてと。ただ、土日は空くのですが、日曜日は行事が入ってくるので、できたら土曜日のほうが空いている日が多いかなと。

(中條委員長)

そうしますと、6月15日以降というのは、今ちょっと手元にスケジュールがないので、土曜日が第1候補ですね。今井委員は、できたら日曜日というような感じなわけですか。

(掛川主査)

ただ今の話の流れから言いますと、6月15日以降の、仮に土曜日という具合にさせていただきますと、6月18日または6月25日になります。

(中條委員長)

できれば2回というお話でありますので、18日の土曜日もしくは19日の日曜日のいずれかを前提に勘案させていただければと思いますが。特に今の段階で、もうこの18日、19日は日程的に無理だという委員のかたはいらっしゃいましたら。

どちらでしょうか。18日のほうです。

両方とも無理な方がいらっしゃいますか。ほかの委員さんはいかがでしょう。そうすると、18日のほうが1人多いということですかね。じゃあ、いったんそれを前提にさせていただくということと、あと場所は長野のここまで来なくてもよろしいですね。

(西牧主任教育支援主事)

会場でございますが、今日は全体説明会ということでここで開かせていただきましたけれども、次回は松本でと考えておりますが、よろしいでしょうか。松本でと考えておりますが。

(中條委員長)

松本のどこで。

(西牧主任教育支援主事)

まだ、これから検討していきたいと思いますが。

(中條委員長)

いずれにしても県の施設。白馬はこっちに来てもらえばいいのでしょうか。もしかしたら松本の方が時間距離は遠いかもしれませんが。

(下川委員)

いやいや。そんなに遠くない。

(中條委員長)

中間を取らせていただいて、松塩地区の県の施設という。

(掛川主査)

松本地区周辺で、どこか用意させていただきたいと思います。

(中條委員長)

神澤さん、18日はご都合は。

(神澤委員)

18日のほうがちょっと苦しんだけど、19日のほうがありがたいのですけれど。

(中條委員長)

19日の方がいい。

19日のほうがよろしいわけですね。

そうすると、1、2名の委員のかた、19日の日曜日の方が参加数が多いのかもしれませんが。

スケジュールはアンケートなど取られますか。それともこの場で次回、次回は決めていけないといけないのですか。

(西牧主任教育支援主事)

次回の日程につきましては、委員長さんのほうと事務局とで決めさせていただくということによろしいでしょうか。

(中條委員長)

それでも数が少ないと。

(掛川主査)

先ほども若干お話が出ておりましたが、毎回次回いつにしようというお話ですと、なかなか皆さまの予定がありますので、ある程度2～3回先ぐらいまでの目途を立てたいと思います。本日のところは次回6月の18日もしくは19日ということで、これにつきましては委員長さんにご相談をさせていただきたいと思いますが、それ以降の日程につきましては、各委員の皆さまに、電話なり郵便なりファックスなりで一定の状況を×なりでご報告をいただきまして、それを入れて2回、3回ぐらい先まで予定を決めていきたいというふうに考えておりますので、よろしくお願いします。

(中條委員長)

ではいったん次回は県のその教育委員会ですか、定例会の後の19日ないしは18日を第1、第2候補として進めさせていただきますので、よろしく参加のほうをお願いいたします。あと事務局から何か。



(西牧主任教育支援主事)

今日お配りしました資料等につきましてですが、次回以降の推進委員会にもご持参いただくようお願いしたいと思います。

それから、資料のうち学校要覧ですが、大変重い資料となっております。ご希望がございましたら、今日は事務局でいったんお預かりとしまして、次回の推進委員会であらためてこちらのほうから用意させていただきたいと思います。お持ちの方は、そのまま持ち帰っていただいて結構かというふうに思います。

以上でございます。

(中條委員長)

今日、お持ち帰りできそうな方は、できたらお持ち帰りいただくとして、見ない方は次回以降の搬出ということをお願いします。

何かほかにございましたら、よろしいでしょうか。

それでは、すみません。ほとんど内容が詰まっていなかったもので、次回以降の進め方は、それぞれ会議の目的ないしは、それから方向性をきちんと事務局と相談させていただいて提示させていただいた上で、10数回に渡るかもしれないのですけれども、ご協力の方よろしくをお願いします。

本日はありがとうございました。